

霧神島

全彩色版

第四篇

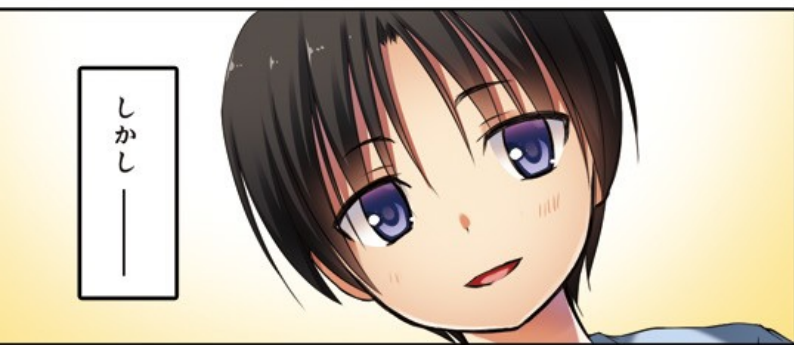
成人向





二人は話すうちに
お互い心惹かれる
ようになった

明るく元気で
クラスの人気者



しかし――



少年には
好きな人がいた



少女は
生贄に
選ばれた



「寂しいことだけど
仕方が無い」

そう思って
諦めるしかなかった



少年は島の宮司の
息子であり、将来
神社を継ぐ者である

代々続く島の風習は
彼にも逆らえない
守るべきことだった



なあ爺様、
こんな山奥に
何があるんだよ？

.....

生贄の儀式が
執り行われて
一ヵ月後



これは.....？

此処には島に富を
齎す者が居る



浩太、御前は将来
霧神社の跡取りと
謂う、大事な
役割が有る

御前も
そろそろ此の島の
在り方を識る頃合か
と思うてな.....



二度目？
.....

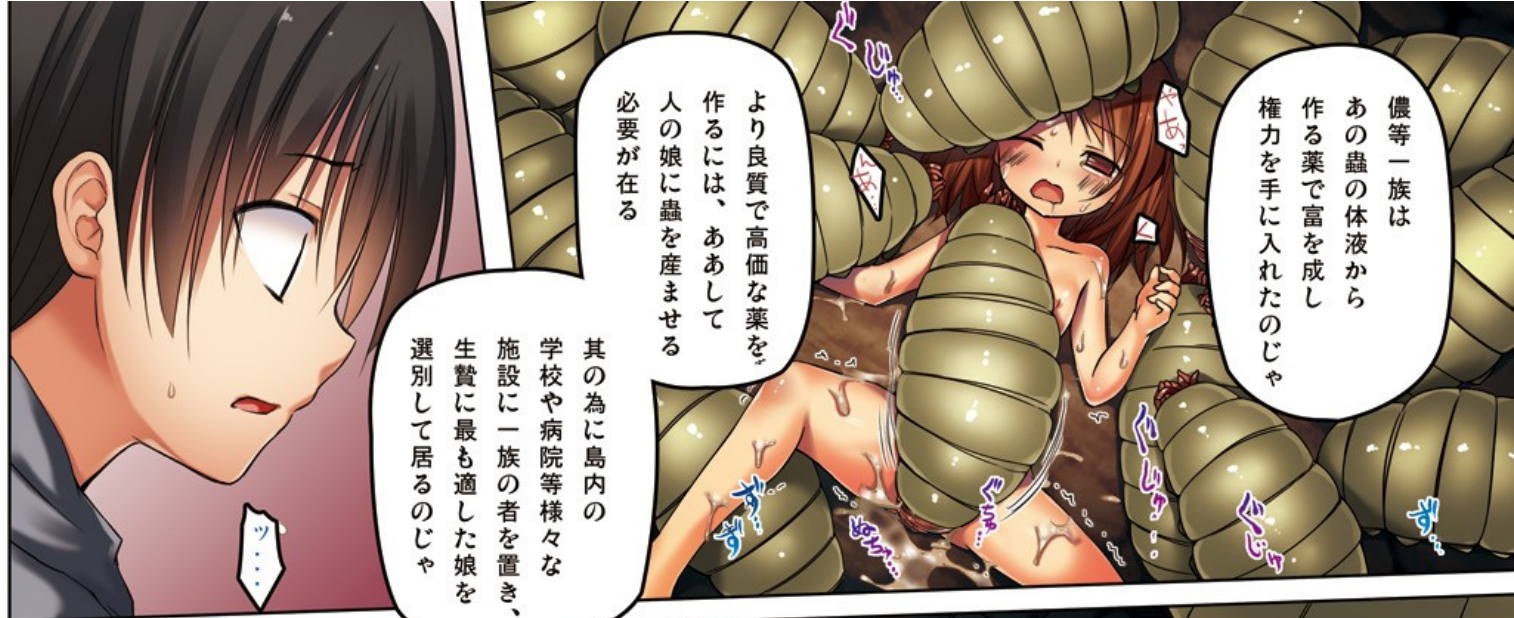
.....



丁度二度目を迎え
嵩の具合を見て居る
所じゃ

ほれ、
覗いてみい





儂等一族は
あの蟲の体液から
作る薬で富を成し
権力を手に入れたのじゃ

より良質で高価な薬を
作るには、ああして
人の娘に蟲を産ませる
必要が在る

其の為に島内の
学校や病院等様々な
施設に一族の者を置き、
生贄に最も適した娘を
選別して居るのじゃ

此の島が潤い、平穩を
保つ事が出来るのは
儂等の力が在って
こそなのじゃよ

其れも此れも
あの蟲様の
お蔭じゃて



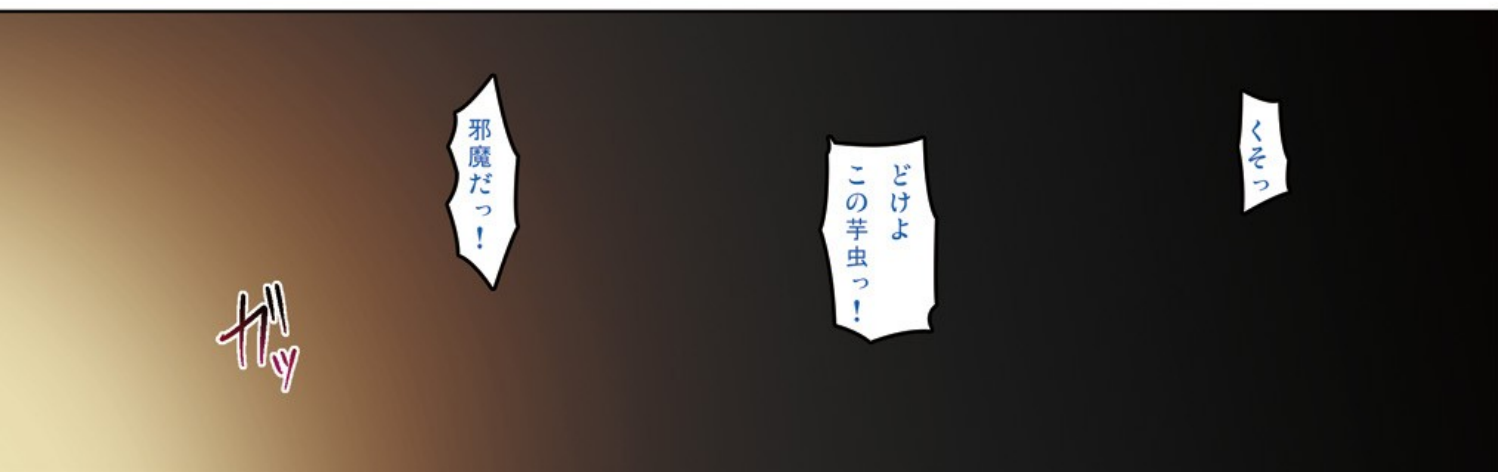
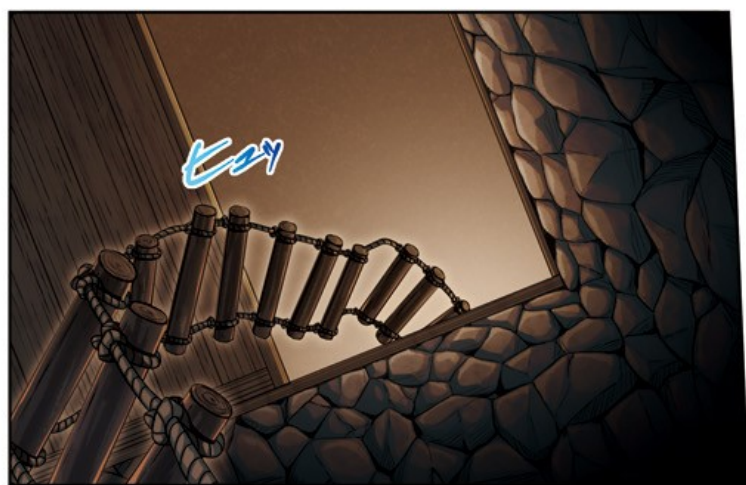
数日後



歩美………!

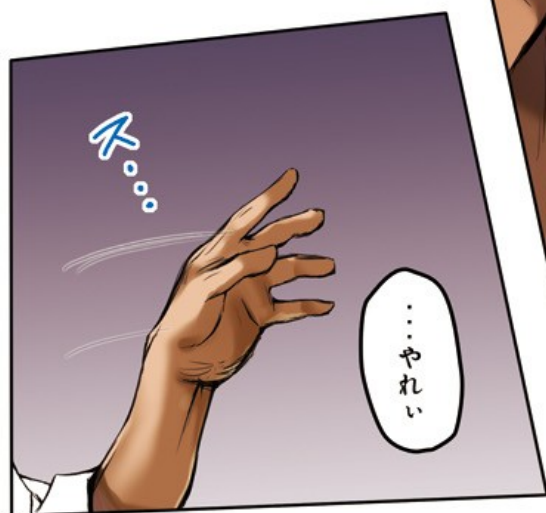
あの贄も捧げて一月……
随分長く正気を
保って居るが

直に脳も侵され
悦楽の虜に成る
じゃろう………





全く…
余計な事を
しおって…





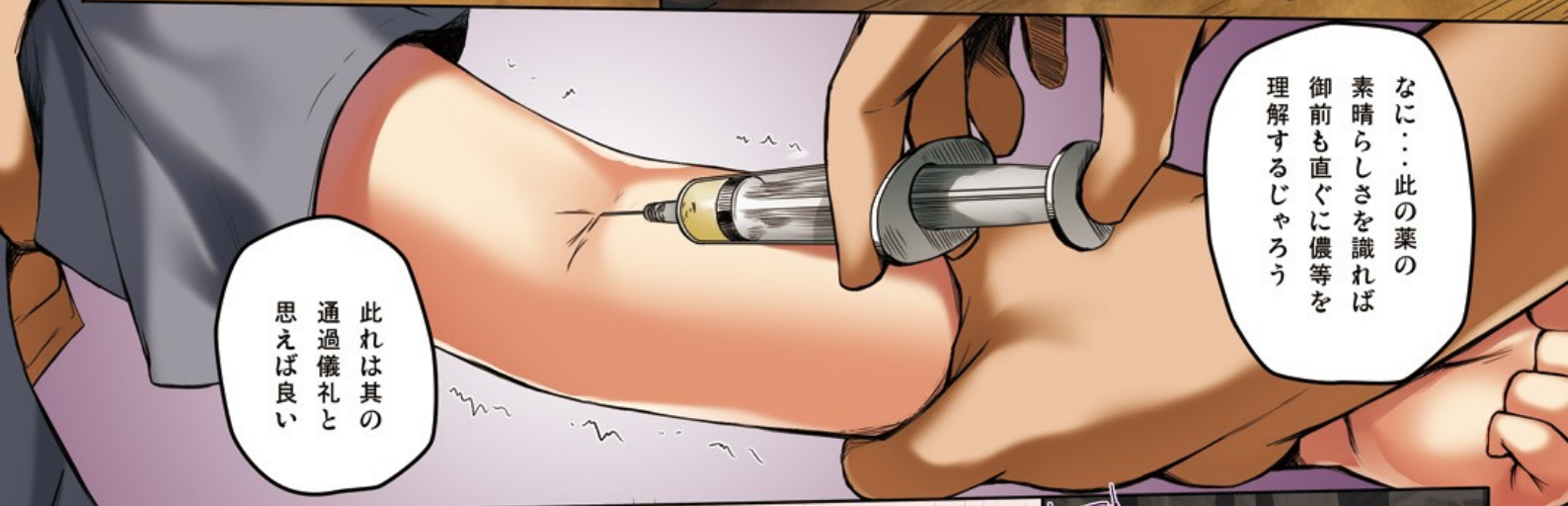
浩太：…御前は
跡継ぎとしての
自覚が足りん様じゃ

くそっ
放せよっ！

少々手荒に成るが
教育の必要が在るな

ツ…
こうちゃん！

やめてっ…
こうちゃんに…
乱暴しないでっ！



なに…此の薬の
素晴らしさを識れば
御前も直ぐに儼等を
理解するじやろう

此れは其の
通過儀礼と
思えば良い

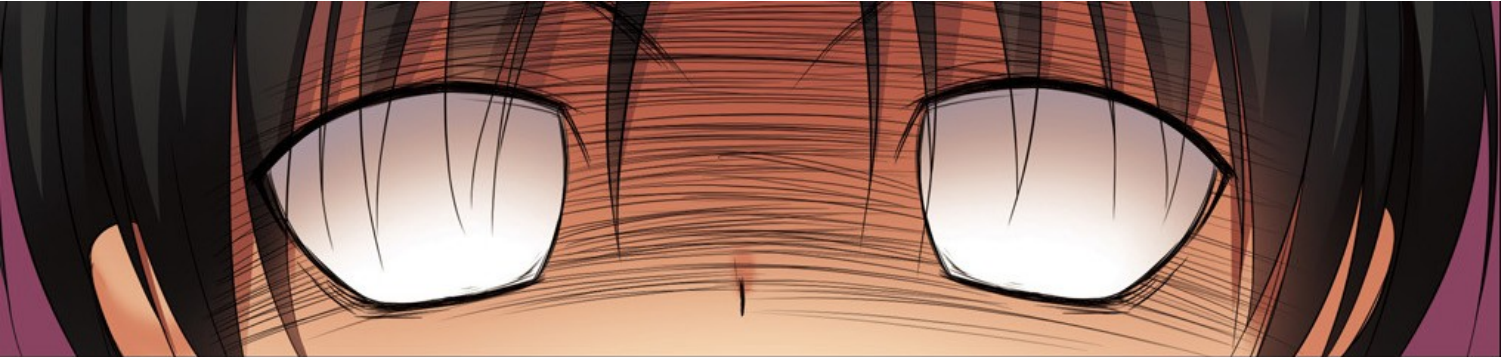


がああああ!!!

なんだこれっ…
身体がっ…
焼ける…!!

如何じゃ、
身体が滾る様じやろう

御前の体軀にしては
多目にしたからのう





はっ

くちゃ

んあ

はっ

くちゃ

くちゃ

ぬちゃ

びん

びん

はっあ...

びん



虫のせいであつ...
おか...

私...
からだ...
からだがあ...

おかしく
なっちゃってる
から...



おね...
がい...

こうちゃん

もう...



御前は黙って
蟲に解された肉壺で
浩太を楽しませれば
良いのじゃ

ぬちゃ

ぬちゃ

ぬちゃ

ぬちゃ



無駄じゃ無駄じゃ、
浩太に御前の言葉は
届いて居らん

ず

ず

ず

どう
如何じゃ浩太、
天にも昇る
心地じやろう

これが贅の役目を
終える頃には
今以上に愉しめる
肉人形に成って居る

其の時は好きなか
使わせてやるからの…
ククク…

にゃぶ
にゃぶ

にゃぶ
にゃぶ
にゃぶ
にゃぶ

ちがうっ…

ツ…

ふん

ふん

にゃぶ

は

ああん

ん

こうちゃんは…
好きで…こんなこと
……

絶対しないん
だから…っ！

フン
たわ
戯けが

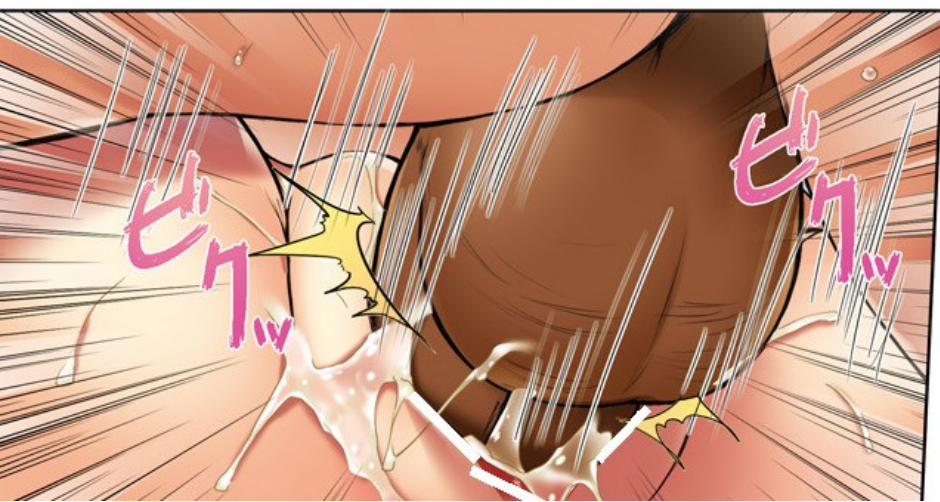
+

y

御前の目の前に
居る者の顔を
良く見てみい

うん

ぐい





信じた者に裏切られ
犯される事で
心の拠り所を失ったか

クク…
獣の様に
鳴きおって

あううう

あうう

ガクン

あうう

はあう
あう

あうう

あうう

ガクン

これで御前の魂は
黄泉に送られる
事じゃろう…

子袋の卵を
使い切るまで
蟲様と戯れるが
良い……



三
カ
月
後
――

気が付くと
少年は祖父の
屋敷にいた

そして自分が
犯してしまったことを
思い出し、ひどく後悔した



少年には
監視が付けられていた

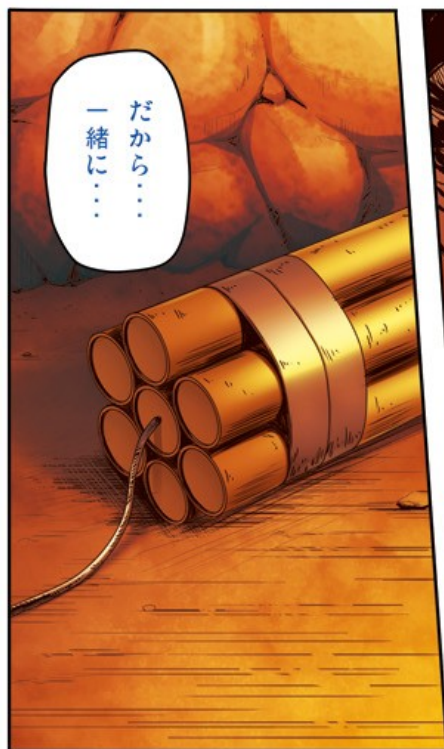
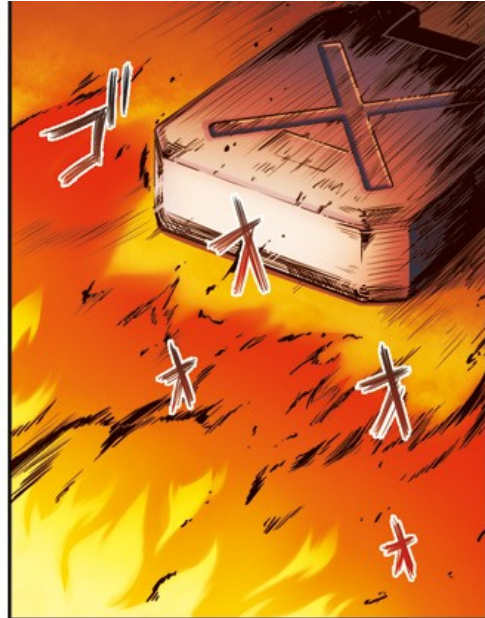
少年はその間、祖父に
従順になった振りをして
島の歴史や生贄の儀式
について学んだ

その勤勉な様子を見て
監視が緩くなった隙を突いて、
少年は準備を整え再び
祠に向かった

だからこそ、
彼は行かなければ
ならなかった

少女がどのような状態なのか
察しはついていた





人知れず
一筋の煙が
天に立ち昇った

その夜——
霧神島の山深く